



松島 ^{れん}蓮 さん

●界小学校 6年

プロサッカー選手になりたい



僕は、仲間と一緒に喜んだり助け合ったりできるサッカーが大好きです。将来の夢は、みんなから頼られるプロサッカー選手になることです。日本代表の長谷部キャプテンが、チームメイトを上手にまとめる姿を見て、自分もそんなプロサッカー選手になりたいと強く思うようになりました。学校ではサッカー部の部長(キャプテン)として、頑張っているところです。これからも技術を磨き、友だちを上手にリードできるように頑張り、夢に近づいていきたいと思います。

市長からの メッセージ



暦の上では間もなく立春を迎えますが、まだまだ寒い日が続きま
す。また空気も乾燥しており、インフルエンザも流行しています。市
民の皆さんには、体調管理に充分注意してお過ごしください。

さて、先月7日には、市主催の新年祝賀会・表彰式が開催され、市
内各界代表の方など約1千人の皆さんと新しい年の門出を祝いまし
た。11日には成人式が市内3カ所で開催され、本市では約1千2百人
の方が成人を迎えられました。式典で私から、新成人の皆さんへ「夢」
という言葉を贈りました。子どもの頃から思い描いた夢、これから未
来へと持ち続ける夢、新成人の皆さんがそれぞれの夢という大きな目
標に向かい、若さという素晴らしい力を最大限に活かし、大いに活躍
していただくことを期待しております。

18日には、「さのまる」のラッピングを施したバスの出発式を佐野
新都市バスターミナルで行い、第一便の出発を盛大にお祝いしまし
た。今後もさのまるを先頭に、さらなる本市のPRを行ってまいり
ます。

さのまるは今年25日がお誕生日です。21日土曜日には、佐野市民体
育館で「お誕生日会」を開催いたします。各地からたくさんのゆるキャ
ラが参加する楽しいイベントとなりますので、皆さんもぜひおいでく
ださい。

本市の行政運営の要であり防災拠点でもある新庁舎の建設工事につ
いては、躯体の鉄骨も組み上がり、今後は外壁、内装工事へと進ん
でまいります。また、老朽化が進んでいた消防庁舎の建て替え工事
にも着手いたしました。市民の皆さんの安全安心のため早期完成を目指
してまいります。

岡部 正英



今回の表紙 「さのまる、はっしん」 1月18日 佐野新都市バスターミナル

市では、佐野ブランドキャラクター「さのまる」および佐野市のPRを目的として、ジェイアールバス関東株式会社が運行する「マロニエ新宿号/東京号」のバス1両の車体に「さのまる」のラッピング広告を掲出しました。

1月18日に出発式を行い、運行が開始されています。(本紙22ページにも掲載)

矢島 俊雄さん

(犬伏下町)



キラリ★

話題の「ひと」

○プロフィール
田中正造旧宅、葛生化石館ボランティア
佐野市楽習講師
日本考古学協会会員

正造とのゆかり

矢島さんは、週1〜2回の田中正造旧宅のボランティア活動や、NPO法人COCAの協力を得て正造をテーマに出前講座をしています。

平成25年に迎えた正造の没後100年の少し前から講演依頼がたくさん入るようになり、昨年は8回の講演をこなしました。宇都宮市や栃木市などの近隣の市町や県外にも出かけていき、会場はいつも満席で質問も相次ぎます。受講後の皆さんが佐野や谷中村跡(渡良瀬遊水地など)のゆかりの地を訪ねてくることも増え、矢島さんが一緒にバスに乗って現地の案内もしています。佐野市に留まらない正造への関心の高まりを感じます。

「自分が子どもの頃は、正造のことなど誰も話題にしなかった。正造が大きく注目されるようになった時期がこれまでに何度かありました」と矢島さんは話します。戦後の経済成長にともない各地で公害問題が起こり、環境汚染が問われ始め、正造の評価が変わったそうです。

最近では東日本大震災の時に、音楽家・坂本龍一さんが当時の菅首相に正造の言葉を引用したメッセージを送り話題になりました。震災以降、



マイクを手に谷中村跡を案内する矢島さん(左)

小中町の旧宅を訪れる人も増加しています。谷中村に貯水池が作られることよって村を離れざるを得なくなった人々と大震災の避難者の姿が重ねられ、100年たっても同じことを繰り返してしまつた私たちに、正造も失望しているのではないかと思えます。

矢島さんは講演の冒頭に「自分は正造の研究者でも専門家でもないです」といいます。

昭和58年に佐野市郷土博物館が建設された時、田中正造関係の資料収集に関わり学芸員として勤務した矢島さんは、正造のことを調べていくうちに、自分の母の祖父が正造のもとで、足尾銅山の鉱毒反対運動に加わっていたことを偶然知つたそうです。そんな事実もあって、今日自分が正造の話をしていることに不思議な縁を感じているそうです。

(市民記者 永倉文子)

佐野弁 ばんざい

予想外に長持ちすることをムソイという

物が減つたり、火が消えたり、固形物が溶けたりするまでの時間が、思っていたよりも長くなることがあります。このように時間が長びくことをムソイ(ムソイ)といい、訛(なま)つてムセーともいいます。

「シロケシ(上質の堅炭は、火力もあるしムセーし、ケム(煙)も出ネーからマツサカ(とつても)エーよ」
飴玉によつては、とけるのに時間がかかるものがあります。

「ナゲーこと舐(な)めてンだけど、このアメツマ(飴玉)はムソクつてねえ。舐め終わるまでニヤー、時間がエラク(ずいぶん)かかるよ」
物価が安くなると、余分なものを買わない限り、支出が少なくカネが長持ちします。このような状態になることをムソイ(ムセー)といいます。

「物価が安いときは、カネの出がムソかつたけど、今ジャー、だいぶ値上がりして、トツタカミタカ(手に入れるとすぐに出ていくこと)って感じだね」
木炭の火やローソクの火や履(は)き物(草履や靴)などが予想以上に持続するようなときにも、ムソイ(ムセー)といいます。

ムソイ(ムセー)は、思い通りにならない、めんどうだという意の古いことば「むさい」が意味変化したものです。ムソイ(ムセー)は高齢者に限らず、中年者でも使っていますが、年齢が若くなるにつれて、使用率がだんだん少なくなっていく傾向にあります。

(市民記者 森下喜一)

